

事業所名

平谷こども発達クリニック  
円山事業所はぐくみ

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

20 日

法人（事業所）理念		障がいのある人の幼児期から成人期に至る「健康」や「暮らし」を医療・福祉と教育との連携で支える。						
支援方針		利用者一人ひとりの個性や特性に寄り添いながら、さまざまな活動を通し人とうまく関わり自立する力を育てよう支援する。その際、さまざまなネットワークを生かし関係者・機関と連携しながら取り組む。						
営業時間		平日 長期	13 9 時	30 0 分	18 16 時	0 分まで	送迎実施について	月～金曜 放課後クラスの希望者に実施
支 援 内 容								
		I		II		III		IV
		月～金曜 放課後クラス		土曜教室		ホリデイアーツ		トータスクラブ
本人支援	健康・生活	決められた時刻に活動を行うことで、生活リズムを整えます。毎回、健康観察を行い健康で安全な生活を支援します。また、必要に応じて衣服の着脱・排泄をはじめ生活習慣の基本的技能が獲得できるよう適切な場面で支援します。衛生面も考慮し活動中に必要に応じて手洗いやうがいを行い、生活習慣化を図ります。						
		調理など日常生活に役立つ活動を行います。	活動中や後に手洗いやうがいを 行うと共に、必要に応じて水分 補給を行い習慣化を図ります。	徒歩で通所できる体力を養いま す。(近隣の該当利用者) 安全な器具取扱力を育てます。	宿題（家庭学習）などに順序よ く取り組むことができるよう支 援します。			
	運動・感覚	それぞれの活動場面に必要な体の部位を継続して動かすことで必要な運動技能が習得できるよう支援します。また、保有する視覚、聴覚、触覚、固有覚等の感覚を十分に活用できるよう活動や遊び等を通して支援します。						
		さまざまな運動遊びを行い、跳ね る、投げる、蹴るなどの基本的な体 の動かし方の習得を図ります。	体育館で思い切り体を動かします。 ボールを使った活動を通し運動技能 を高めます。	配色や構成の感覚を磨きます。 目と手の協応動作の向上を図りま す。	学習場面では、正しい姿勢で学 習し、体幹の形成を図ります。			
	認知・行動	毎回の活動について、さまざまな遊び等の選択肢から自己選択ができるよう提案したり、自己決定ができるよう支援します。また、ルーティン化している活動について、次に何をするか考え自分で判断できるよう促します。						
		スケジュールを確認し、各活動 の役割を分担し、進行等も自主 的にできるよう支援します。	準備運動等を皆の前で行った り、マット運び等の準備を自主 的に行ったりします。	自分で好きな画材を選び、楽し く描いたりする体験を積み上げ ます。	各学習課題に取り組むととも に、間違った時はミスを受け入 れられるよう学びます。			
言語コミュニケーション	一人ひとりのコミュニケーションの特性に応じて、音声言語だけでなく、サインや表情・動作、また音声出力ボード、ipadなどのコミュニケーション手段を用いて自分の思いを積極的に伝えることができるよう支援します。また、話している人や友だちの方に顔や体を向け、しっかり話や気持ちを理解しようとするような基本的姿勢も大切に育てます。							
	語彙を増やしたり、自分の思いや 気持ちを表現する方法を一緒に考え ていきます。	自分の頑張ったところ、友だち の良かったところなどを自分な りに発表できるようにします。	道具・素材やテーマなどについ ての自分の希望を職員に伝える よう支援します。	分からないところは自分から職 員に尋ねることができるよう支 援します。				
人間関係社会性	集団活動を通して相互理解や仲間作りにつながるができるよう支援します。また、大人の存在が、感情が不安定になったときにも安心感を得たり、相談することで自分の感情に折り合いをつけたりできる「安心基地」になれるよう支援します。							
	集団活動を通して、ルールや役 割を理解し社会性が育まれるよ う支援します。	チームの仲間が頑張ったときに は、グータッチをするなどして 喜びを分かち合います。	友だちの作品を觀賞し、良いと ころを褒めるなど認めいま す。	他児と仲良く遊び、人の意見を 聞いたり発表したりできるよう にします。				
地域支援・地域連携	活動において周辺地域を散歩したり近くのストアに買い物に出かけたり、また地域の学校のボランティアを受け入れたりすることで、地域への理解が深まるような啓発活動を行います。子どもが関わる相談支援事業所や地域の障がい福祉事業所等と連携して会議を開催し、利用者が関わる地域への理解が深まるための支援を行います。							
	事業所で毎年開かれるバラ祭り に参加し、地域住民と交流しま す。	事業所から近い学校の体育館を 定期的に使うことで間接的な理 解を深めています。	地域の作品展等に出品すること で地域に開かれ、本人の楽しみ や意欲につなげます。	学校と連携し、苦手な学習面の フォローにつなげる。				
移行支援	小学校から中学校等への移行や特別支援学校内の学部間の進学等にあたっては、関係者間で移行支援会議などを行い、スムーズに移行支援がなされるようにします。							
家族支援	連絡帳等はその日の活動での様子等を記入したり、お迎えの時に気がついたことを報告したりすることで、家族が本人のことを理解し、本人が家庭でもうまく過ごせるように支援します。また、本人だけでなく兄弟についての保護者からの相談等にも応じます。							
	家族のレスパイトの時間の確保 や就労等による預かりニーズへ の支援をします。	兄弟も一緒に活動に参加したり しながら、家庭での支援方法に ついて共に考えます。	家庭と連携して製作活動を余暇 に生かすことができるように支 援します。	家庭学習の仕方や、支援方法を 一緒に考えます。				
職員の質の向上	2週間に1回程度クリニック全体で研修を行い、参加できなかった職員には録画視聴または資料の回覧をします。 (研修例：発達障害について、不登校について、精神疾患について、就学相談について、障がい児の就労について、ディスレクシアについて等) また、職員会等で事例検討などを行い共通理解を深めます。							
主な行事等	地域のイベント（バラ祭り）、所外活動（散歩、ブドウ狩り、買い物学習）、季節のイベント（ハロウィーン、クリスマス会）、社会性を育てる活動（人生ゲーム、かるた、トランプ、ジェンガ）、運動を取り入れた活動（サーキット、ベタンク、スリッパ飛ばし、キックボウリング、ダンス）、認知面を育てる活動（レゴ、アイロンビーズ、プラ板、ジグソーパズル、ジェスチャーゲーム）、言語面を意識した活動（ピンゴ大会、しりとり、ひらがな当てゲーム）など							